

作・造・創

富岡市の「知的障害者

授産施設セルブ水土舎」

富岡市後援の「知的障害者授産施設セルブ水土舎」(金谷透施設長、利用者30人)は、生ゴミ残飯内の高カロリーと高たんぱく質に着目、これを利用した養鶏用飼料化に取り組んでいる。

生ゴミは、同市田篠で自動車部品の製造をしている「ポッシュオートモーティクスシステム富岡工場」(益高力ロリー・高たんぱく質)も販売し地域と交流

養鶏用飼料に生ゴミ利用

品以外の割りはしや使い捨て油脂類の混入を避けるように頼んでいる。

2つのグループホームからの生ゴミ残飯も飼料化してニワトリに与えている。

同工場からの寄付金を原資に、生ゴミ処理機(165万円)を購入。この処理

生産された卵は、同市役所、甘桑、妙義両町役場、その他の官公庁、地元

機で熱処理し、発酵菌を混ぜ込んで飼料にする。毎日、50〜60日前後の生ゴミ残飯を、配合飼料と一緒に処理している。

これを3日後にニワトリに与えている。ニワトリはイサフランと呼ぶ品種で、1300羽飼育しており、配合飼料だけよりも30〜50%前後の生ゴミ残飯の入った飼料の方を好むという。このほか、水土舎施設の給食と、富岡市や甘桑町の

生ゴミ残飯を熱処理し、発酵菌を混ぜ込んで養鶏用の餌に



院、地元スーパー、養護学校などで販売しており、好評という。また販売活動は施設利用者と、地域との貴重な交流の場にもなっているという。【松本時夫】